

KANAGAWA

一般社団法人 神奈川県建築士事務所協会

<https://www.j-kana.or.jp/>
email: info@j-kana.or.jp



3

March , 2024
vol. 449

令和6年5月号より会員寄稿

『わが恩師を語る』の連載が始まります。
詳細は裏表紙を参照して下さい。



Contents

特集 無印良品が考える空間づくり	01
建築探訪(県西部の駅舎)	03
特集 神奈川の残しておきたい建築	05
委員会活動報告(指導委員会)	07
賀詞交歓会報告	08
賛助会だより	09
支部のページ(相模原支部・大和綾瀬支部・鎌倉支部)	11
編集者のつぶやき(高校生と「住吉の長屋」)	14

瓦版は2021年12月よりWeb配信となりました。

特集 無印良品が考える空間づくり

第6回 山といきるといこと

株式会社良品計画 空間設計部 喜多見 智子

良品計画が山や木と向き合う理由、それは山がすべての始まりだからです。

私たちの住む日本は世界第三位の森林大国です。海の無い県はあっても、山の無い県はありません。神奈川県も丹沢は馴染みの深い山だと思います。日本各地、身近に山があるのです。

山に雨が降って、川が出来る。山の地層の中でたくさん栄養をたくわえた川の水が、海に流れる。川が運んだ栄養がプランクトンを育て、そのプランクトンを食べて魚は育ち、そして、その魚を獲ることを営みとする漁師がいる。また、それを消費する生活者がいる。そんな循環の源が山にはあります。

下の写真は、宮崎県の山に恵みの雨が降ろうとしている、まさにその時です。雲が山を覆いはじめ、命の循環が始まる瞬間です。

現在の日本は、山と生活者の間にはなかなか直接的な繋がりがなく、生活者は山に対して無関心だと言えます。

山を知ってもらう事で生活者にも興味を持ってもらい、太古の昔から続いていた山の良循環を取り戻したい。それが私たちのおもいです。

無印良品と山の関わりのはじまりは、小さな木箱を販売する事でした。それから17年経った今では、地域産材を使って店舗に木育広場を作ったり、地域産材の外壁を作るまでになりました。

中でも一番大きな取組みは「日本の木でできた家具」シリーズをオフィス家具メーカーと共同開発し、それを使って自社をリノベーションしたことです。

しかしいろいろな取組みを行う中で反省点も分かってきました。売りたい気持ちが先行してしまい、山の供給体制に気が回らなかったこと、商品を作るまでに、植える人、育てる人、切る人、様々な人が関わっている事を伝えきれなかったなど、まだまだ私たちは山への関心が足らずにいた事に気づきました。

1

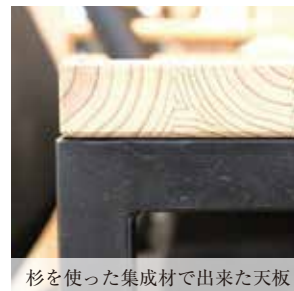




製材時に残る丸みのある未利用材を集めて作った集成材



杉を削り出して作ったスギコダマ



杉を使った集成材で出来た天板

前記した「日本の木でできた家具」シリーズは、製材時に残る材や節の多い材も積極的に使った集成材を使用したシリーズで、木をあますことなく使いたいという考えから生まれたものです。この思想は素晴らしいものですが、もっと身近なものでも木に触れる事は可能です。何故なら合成樹脂の製品が世の中に出回る前は、普通の生活でまな板、おしゃもじ、お弁当箱など、木製品を使っていたことを思い出せばよいからです。たしかに合成樹脂の製品は便利です。木は手間がかかりますが、「何か良いよね」という感覚を呼び起こすことが出来ます。それは、木のぬくもり、木目のゆらぎ、その感覚が人間のDNAにはきざまれているからだと思います。小さい事かもしれませんが、すこしずつ木に触れていく機会を増やすことで、いまより山が身近に感じられると思います。私たちがこれからも山と向き合っていく理由は、良い商いとは、お客様だけではなく、生産者や産地などその先の未来を作る社会も大切にしていこうと考えているからです。

一方通行の商流により消費者を作るのではなく、これからは、消費者も一緒に巻き込み、木を育てて作って使って楽しむというサイクルを生むことで、山を作っていく共創者になっていくことでしょう。この活動が当たり前にならないと、50年、100年前の人たち、代々私たちのために守ってくれた山を良い形で100年先の子どもたちに残すことが出来ません。このようにして、命の恵みの源である山を身近に感じて、良い山の循環を取り戻していきたいと思います。

これまで、6回にわたり、私たち良品計画・空間設計部の事例を紹介させていただきました。私たちの活動は、まだまだ未熟ですが、感じ良い暮らしと社会の実現に向けて、世の中のいろいろな方々を巻き込みながら社会にインパクトを与える努力をしています。少しでも皆様の設計や施工のアイデアとなっていれば幸いですし、感じ良い暮らしと社会について考えていただけるきっかけになればと思います。

このような執筆の機会を与えてくださいました神奈川県建築士事務所協会の皆様に心から感謝いたします。そして、ご愛読下さった皆様にも御礼を申し上げたいと思います。1年間ありがとうございました。



先人が残してくれた木を次世代のために回収する

県西部の駅舎

滝口建築設計 滝口 喜昭

I. はじめに

1981年に大学を卒業後、土木コンサルタント会社の建築部構造部門に所属していた関係で、一般建築物や官庁施設の他に土木構造物周辺の建築の構造設計に携わっていました。特に1980年代後半から1990年前半においては、関東や沖縄でモノレール、新交通システムや地下鉄の盛んな建設に伴う設計が行われた時期があり、多くの駅舎の構造設計に関わっていました。その時代の駅舎構造物はやはり機能性重視で設計されていました。しかし、私が土木コンサルタント会社を離れ秦野に戻って間もなくして小田急線の秦野駅が竣工し、その形状には付加価値を持った新しい駅舎の息吹を感じました。そして、そこから約8年が経つと、同じ神奈川県西部に小田急小田原駅が見事な逆三角形キールトラス構造で姿を現わしました。

今回は、この小田急小田原線の2駅について構造的観点を中心にご紹介しようと思います。

II. 秦野駅

秦野駅は新宿から小田急ロマンスカーでちょうど1時間の神奈川県西部にあり、大山や丹沢山地が北側にある盆地の地が秦野です。駅舎の設計は土木コンサルタントのパシフィックコンサルタンツ株式会社と株式会社小中村弘道・都市建築計画設計研究所で1996年の竣工です。デザインのポイントは、丹沢の山並みを曲面屋根の連続のシルエットで表現し、また、コンコースから改札を通り階段を降りてホームへと続く人の流れを、全国名水百選に選定されている秦野盆地湧水群の水を連想させるようにイメージしているとのことです。構造的特徴としては、コンコース階を支持する2本の大梁を線路に平行に流し、直交梁を短スパンで架けることにより、梁成を小さくしてロングスパン化しているところです。また、ホーム屋根部も同様に2本のハニカムビームを線路に平行に流し、2次部材により曲面を構成して山並みを表現しています。しかし、一番の特徴はホームを使用しながら施工するため柱本数を減らす必要があり、先程の2本の大梁を8本の方杖で支え、これらを集積して1本の太柱にて支持しているところです。この構造手法はコンコース階でも屋根を支持するためにも用いられ、ホーム階と統一された支持方法でデザイン的にも洗練された印象を受けます。ホーム階は少し暗い感じがしますが、コンコース階は富士山や電車に見える面に大きなガラスを用

い、また、トップライトにより明るい日差しの差し込む雰囲気のある駅舎となっています。

秦野駅は通商産業省選定グッド・デザイン施設に選ばれ、また、関東の駅百選認定駅となっています。ただ、こんな秦野駅も鳩の糞害防止の金物等が張り巡らされているのが現状であり、少し残念な感があります。



秦野駅南口全景



秦野駅曲面屋根とハニカムビーム



秦野駅屋根支持方杖とコンコーストップライト



秦野駅ホーム大柱

Ⅲ. 小田急小田原駅

小田原は言わずと知れた戦国武将北条氏の小田原城のある地です。東海道の城下町で箱根への入口、小田急小田原線終着駅、東海道線や東海道新幹線乗換駅と神奈川県西部の交通の要衝でもあります。そんな小田原の東海道新幹線駅と東海道線駅に挟まれた位置に小田急小田原駅が存在します。そのため、外観はあまり観ることができないのが残念です。この駅舎の特徴は、電車の車両12両ほどの長さの屋根を支える3本の鋼管を逆三角形に配置したキールトラスとガラス外壁の組み合わせを持つことです。初めて見た時は、駅舎もとうとうこのようなデザインになったかと驚いたものです。それもそのはずで、この駅舎は土木学会デザイン賞2008において奨励賞を受賞しています。設計は、土木コンサルタントの株式会社トーニチコンサルタントと中山卓郎アトリエ一級建築士事務所他です。土木構造物と言うべきなのか屋根とガラス外壁を支持して明るい空間を演出するキールトラスはそのスケール感に圧倒されるものがあります。一度は見に行く価値のある駅舎構造物としてお勧めします。

ただ、残念ながら駅案内板やコンコースを塞ぐ自由通路の売店等により分断され、キールトラス全体を内観で見ることができません。唯一、本当に素晴らしい空間を味わえるのは、ホームの新宿方向の端で車両からホームに降り立った瞬間です。そこから前方のコンコース階と天空のキールトラスを見上げると、大きな曲線を描くキールトラス屋根とガラス外壁が生み出す気持ちのよい未来的な空間が広がります。また、そこから前方に歩いて進みエスカレーターや階段でコンコース階に上がり振り返ると、キールトラスが下階に向かって降りて行く美しい曲線を描く光景も、興味深いものです。

しかし、その心地良さも改札手前の駅としての案内表示板までです。ここで一気に現実に戻され、改札を抜けると自由通路の向こうには土産物屋が並び、

キールトラス屋根もそこで分断されてその先は見えなくなってしまうのが何とも残念です。



小田原駅キールトラス



小田原駅コンコース階から見下ろし



小田原駅改札口付近



小田原駅自由通路売店裏からのキールトラス

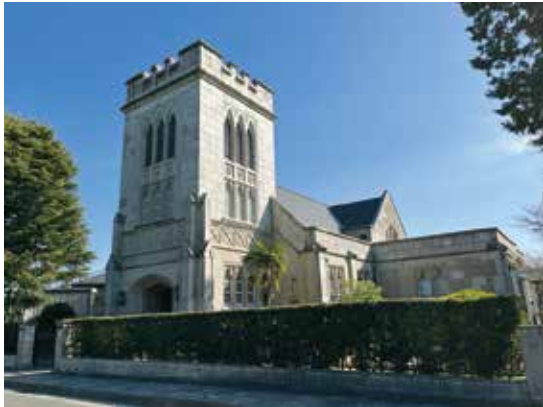
Ⅳ. 終わりに

土木と建築の接点で協働の産物の一つともいえるべき鉄道駅舎も、時代とともに機能だけを追求したものから地域性や空間の豊かさ等を兼ね備えたものも登場してきています。今後も全国各地で地域のシンボルとなり、私たちの日常や未来を豊かにする構造物や建築物が増えて欲しいものです。

特集 神奈川の残しておきたい建築

横浜山手聖公会（横浜クライストチャーチ）聖堂

横浜支部 株式会社A&A設計室 雨森 隆子



山手は、だれもが1度は訪れた事のある所ではないでしょうか。そして、山手通りに面したランドマークでもあるこの教会、横浜山手聖公会聖堂、その荘厳さには、圧倒されます。

若かりし頃、私の勝手な教会のイメージは、カトリック山手教会の様な、尖塔に鐘楼、連続するアーチのある窓にステンドグラスがあると思っていました。

この教会に出会い、時代背景等から、色々な様式の教会がある事を再認識しました。

*歴史

横浜クライストチャーチは、1863年（文久3年）に現在の中華街の一角に生まれ、その後、1901年に現在地の山手町235番地に移りました。

しかし、1923年（大正12年）の関東大震災で当時の聖堂が崩壊し、1931年（昭和6年）に現在の聖堂が建て替えられました。

その後も、1945年5月には空襲に遭い、更に2005年1月には放火に遭いながらも、再度復興し、現在も建てられた当初の聖堂の姿を堅持しています。（出展：横浜山手聖公会聖堂ホームページより）

*建物

外観は、中世イギリスのノルマン建築とゴシックを合わせたようなデザインで、三連の尖塔アーチ型の開口部を持つ城砦を思わせる正面の塔が印象的である。外壁は、大谷石張りで重厚感があり、随所に彫刻が施されています。

所在地：横浜市中区山手町235

竣工：昭和6（1931）年

設計者：J.H.モーガン

構造規模：RC造1階一部2階地下1階

その他：横浜市認定歴史的建造物

（出展：かながわ昭和たてもの散歩より）

・神奈川県建築士会・有隣堂書店にて販売中



3代目となる横浜山手聖公会聖堂は、これまでと違うデザイン、RC造、大谷石張りの外観など、建築技術の近代化（偉大な設計者J.H.モーガン）が、横浜村を開港により急速に発展する要因の1つと思われます。この事と私は、40年以上前に、この聖堂で結婚式を挙げ、人生の節目となった所でもあり、残したい建築としました。

鎌倉市材木座N邸

鎌倉支部 アトリエ空庵 中原 尚代



アプローチ



手水鉢廻り



茶室廻り口

海岸からほど近い別荘を所有していたF 社が敷地の一角に昭和8年（1933年）頃貸家建築として建てたものを茶道師範が昭和35年（1960年）に所有することになった。

戦中・戦後と宝塚の月組組長を務めた女優Sと演出家T夫妻が住まい、その後、地元の経師が住んでいた時期もあったようである。

この建物は奇遇にも各方面の文化を担う人々によって住み継がれてきた経緯がある。

数年前に茶道師範からその弟子が住み継ぐこととなった。

「建物の内部・外部共に手入れの大切さを実感することが出来る空間となっている。」

10年以上前に行った庭園保全推進員養成講座（当時神奈川県主催）での調査票にそう記載されているが、手入れの大切さとそれ以上に大変さを実感している。

少しずつでも手入れをしておきたいと思案している弟子であった。

6

【場所】 神奈川県鎌倉市材木座 非公開



南側外観



縁側



床の間

委員会活動報告

指導委員会活動報告

指導委員会委員長 松井 正

指導委員会の業務内容及び最近の業務報告を紹介させていただきます。

・苦情相談業務は神事協議室にて原則月3回水曜日の13時半～16時半に、委員2名体制で行っていて、1月にはあっせん業務も行いました。

・「建築物調査・鑑定業務登録事務所」必修研修会を年に2回実施しており、直近の9月の講習会では委員の講師の他に、住宅保証機構より講師をお招きして「施主を守る瑕疵担保活用の可能方法 調査編」という題目の講習会を実施しました。

3月には(仮称)「検査員から見た工事監理のポイント」という題目の講習会を実施予定です。実務を行っていく上で有益な講習会を実施しています。

・毎回の新規開設者講習会の講師を委員がつとめております。

・昨年7月29日に「14士業合同 くらしと経営のなんでも相談会」の相談業務を委員が担当させていただきました。

・大和市役所より公共工事のやり直し指示に関する第三者調査等業務委託を受け、委員が業務にあたっています。現段階で6月までを予定しています。

・昨年11月6日に神奈川県弁護士会、指導委員会、木造特別委員会による合同意見交換会を実施しました。指導委員会からは11名が出席し、テーマである「裁判になった時の弁護士の考え方と建築士の考え方の違い」を基に、有益な意見交換ができました。今後も継続的に機会を設けて実施の予定です。

尚、神奈川県建築士事務所協会では弁護士会と「弁護士及び建築士事務所の紹介等に関する協定書」を2020年に締結しています。

以上指導委員会の活動を記載しましたが、今後も他の団体・委員会との交流を図りながらSNS等で委員会の活動をより多くの方に周知頂ければと思っております。



「建築物調査・鑑定業務登録事務所」必修研修会



神奈川県弁護士会との 合同意見交換会

賀詞交歓会報告

令和6年 新春賀詞交歓会

去る令和6年1月25日ロイヤルホームヨコハマにて新春賀詞交歓会が行われました。

昨年は、コロナの影響もあり人数を抑えての開催でしたが今年はフル開催です。平山会長の挨拶に続き、今年最大の関心事「会員サポートセンター」進捗状況報告が、鈴木業務支援委員長・白川広報情報委員長よりなされました。

続いて衆議院議員 甘利明様をはじめ、神奈川県議会副議長 亀井たかつぐ様、神奈川県県土整備局建築住宅部長 羽太美孝様、横浜市建築局建築指導部長 曽根進様のご挨拶を頂きました。来賓紹介、祝電披露の後 待ちに待った乾杯のご発声は、(一社)神奈川県建築士会会長 上原伸一様に行われ、懇親の場が開かれま



会員サポートセンター進捗状況報告



神奈川県議会副議長 亀井たかつぐ様



横浜市建築局建築指導部長 曽根進様

会報誌編集特別委員会 杉本 勝郎

した。お酒の力も相まってそこかしこで談笑、高笑いが聞こえ楽しい会のひとときも、時間が経つのが早く、山口英生副会長の 関東1本締めで、打ち止め。

皆、帰途につく者、飲み足らず話足らず2次会に連れだって行く者様々な新春の風景でした。



平山会長



衆議院議員 甘利明様



神奈川県県土整備局建築住宅部長 羽太美孝様



神奈川県建築士会会長 上原伸一様

賛助会だより

システム建築『日成Vスパン-S』

日成ビルド工業株式会社 神奈川支店 櫻井 みなみ

日成ビルド工業の 櫻井みなみ と申します。

展示会や青年部会等では日頃から大変お世話になっており、心より感謝申し上げます。

さて、弊社日成ビルド工業株式会社は1961年に創業し、『システム建築事業』と『立体駐車場事業』の2つの事業を柱に、設計・生産・施工からアフターサービスまでをトータルにサポートする建築メーカーです。

今回は、弊社のシステム建築商品である『日成Vスパン-S』をご紹介します。

『日成Vスパン-S』は最大40m※の無柱スパンを実現します。大スパンの室内空間を自由にレイアウトできるため、将来的な間取り変更にも対応しやすいのが特長です。さらに、中柱を設けることで最大60mまで対応可能です。

比較的シンプルな外観の工場や倉庫だけでなく、外装や建具などを自由に選ぶことで、企業イメージを反映させた外観・内観デザインをもつスーパーマーケットなどの店舗や、給食センターなどの公共施設にも利用されています。

※積雪30cm、風速34m/s、桁間隔5mの場合

メリット①基礎まで一貫設計・見積が可能

システム建築メーカーとして、上部構造（システム建築本体）に合わせて、下部構造（杭・基礎）まで一貫した設計ができるため、構造としてトータルの経済設計を実現することができます。

トータル設計により、基礎の簡素化、調査・検査にかかる工期も短縮されるため工事にかかるコストが軽減します。

メリット②安心・安全の大空間

主要鋼材や二次部材に軽量で高強度を有する『溶接軽量H形鋼』を採用し、建物本体の重量を軽量化。「大空間」を実現しながらも、基礎や建物にかかる荷重負担を軽減します。

また、柱と梁をつなぐ接合部は、構造評定を取得した『斜めエンドプレート接合』により、高い強度と剛性を確保しています。

メリット③自社専門工場での部材生産

自社の専門工場では主な材料である『溶接軽量H形鋼』を常に在庫し、汎用性を高めた規格部材を製造しております。さらに、プレートなどの二次部材を計画生産することで、物件確定後の生産リードタイムの短縮に寄与しています。

システム建築、プレハブ建築についてのお問い合わせがございましたら、櫻井までご連絡いただければ幸いです。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



日成ビルド工業株式会社 神奈川支店
〒222-0033 横浜市港北区新横浜2-7-1 新横浜プラントビル7階
TEL 045-470-3391

賛助会だより

木造4階建て賃貸住宅竣工へ ～RC造からの木造への工法転換事例～

株式会社三菱地所住宅加工センター 風見 亮太

株式会社三菱地所住宅加工センターの風見と申します。

日頃より賛助会員として展示会の出展などに参加させていただき誠にありがとうございます。

弊社はツーバーフォー構造材のプレカット・加工をはじめ、床・壁パネルの製作・配送、建築資材の調達・供給、工事請負などを行っております。

現在弊社では、従来まで木造化が進んでこなかった非住宅・中大規模建築物の分野に対する木造化提案を積極的に行っており、今回弊社で施工をいたしました木造4階賃貸住宅の紹介をさせていただきます。



《物件概要》

- | | | | |
|-------|-------------------------------|------|----------------|
| □構造 | : 枠組壁工法、木造1時間耐火 | □用途 | : 共同住宅（4階建39戸） |
| □建物規模 | : 延床面積：1952.80㎡(590.72坪) | □建築地 | : 千葉市中央区 |
| □工期 | : 2023年5月着工～2024年2月竣工 | | |
| □施工範囲 | : 躯体建方、内部耐火被覆、アルミサッシ取付け、断熱材充填 | | |

当初、RC造の計画で工期を悩まれていた設計事務所様に対し、木造化をすることにより、建物軽量化による基礎工事の軽減、パネル化による躯体工事短縮のメリットをご提案させていただきました。

ただしRC造の間取りのまま木造化に転換できたわけではなく、当初の計画ではファミリータイプが1,2階、ワンルームタイプが3,4階となっており、木造転換にあたり壁量の多いワンルームタイプを荷重が掛かる下層に、壁量の少ないファミリータイプの部屋を上層に配置を移していただくことで構造を成立させていただきました。（間取り・住戸数に変更なし）

今回は設計・建設会社様が木造初挑戦ということもあり、木造の納まりや施工区分・工事の流れについて着工前から打ち合わせを重ね、以降竣工間際まで工事サポートをさせていただきました。

（2023年度 林野庁によるJAS構造材利用拡大事業の実証支援事業への申請業務もサポートもさせていただきました、無事採択となりました）



今回の施工事例により中大規模建築における木造化の可能性について広くご理解頂き、非住宅・施設系、中大規模、中高層建築の木造化をお考えの方がいらっしゃいましたら、遠慮なく風見までご連絡ください。

宜しくお願いいたします。

株式会社三菱地所住宅加工センター 開発部
〒261-0002 千葉県千葉市美浜区新港228-4
TEL 043-242-9065 携帯 070-3811-3989
E-mail : ryota_kazami@mjkc.co.jp

相模原支部活動報告

現在会員数63社の相模原支部は、5月23日支部総会にて役員改選が行われ多数の若手メンバー含め合計20名で運営しています。

コロナ禍により疎遠になっていた会員の「スキルアップによる組織力の強化」を念頭に、故小林忠志氏の残された言葉「みんな仲良く、楽しく」をモットーとして、多くの関連団体に、ご協力・ご尽力を頂き、活動を展開しています。

9月1日(防災の日)「九都県市による防災訓練」に「応急危険度判定士会相模原支部」として、市職員を中心に事務所協会・士会の登録メンバーと共に訓練を行いました。本市当番年でもあり大々的に実施され、岸田首相も参加されました。



応急危険度判定



国会議事堂

10月5日 本会顧問の甘利明衆議院議員事務所のご尽力により、国会議事堂の見学会を行いました。天皇陛下の御休所や衆議院本会議場、中央広場など秘書の方の案内・説明を受けながら見学させて頂きました。

議員食堂での昼食も忘れられない思い出です。

引き続き、自民党本部もご案内いただき、「総裁室」入室など貴重な体験をしました

10月10、11日 1泊2日の「名古屋方面研修旅行」を実施しました。

今回は相模原支部の賛助会員(株)スカイにご協力頂き、最新のプレカット工場見学や木材の現状等を聞きました。宿泊は蒲郡温泉・ホテル竹島で、翌日は名古屋城本丸御殿を見学しました。

納涼亭の鰻、カクキューの八丁味噌工場見学と味噌煮込みうどんと、名古屋満喫の旅行でした。

相模原支部長 (株)RAN企画設計 新村 玲子



(株)スカイ見学



名古屋城



カクキュー

12月4日 会員の(株)神奈川建築確認検査機関によるセミナーを開催しました。

テーマは「2025年に向けた建築確認及び省エネ関連制度の見直し」です。直面した課題を検査側からのポイント解説をして頂きました。セミナー終了後支部の忘年会を開催し疲れた頭を楽しくほぐしました。

神事協活動や様々なイベントを通し、関わりある方々を巻き込みながら「仲良く、楽しく」体験活動をしています。支部活動を支えて頂いた皆様に、心より感謝申し上げます。

4月6、7日開催予定の「相模原市民桜まつり」に、「仕事展」ブース参加しますので是非、足をお運びください。



忘年会

大和綾瀬支部しごと展紹介

去る2024年2月4日に第7回大和綾瀬しごと展
2024を開催しました。

展示としましては、支部会員、市内設計事務所(会員外)、賛助会員の展示を行っています。大和市・綾瀬市内の会員外へしごと展の参加の案内をお送りしごと展を通して、事務所協会を知ってもらい、係わりを持っていただき会員増強へつながれどと考えています。

ワークショップとして、著作を行い、大和市・綾瀬市パズル遊び、講演会、耐震診断などの相談を開催しました。2日間開催を目指しましたが、会場がなかなか土日とれないため、1日の開催になりました。

会員外の参加は1社でした。

支部長 有限会社徳豊設計 小幡 剛志



大和市・綾瀬市パズル



仕事展の様子

第4回から続けてきた、WEBでのVR展示も引き続き行っています。

VR展示については、7月末までとなっています。QRコードを添付しますので、ご覧いただければ幸いです。



仕事展ポスター



VR展示 QR (大和綾瀬支部 HP)

鎌倉支部の新たな取り組み ～We are your city' s architects～

石原工務店株式会社一級建築士事務所 石原 貴司

鎌倉支部では会員活動の活性化・認知活動を目的に仕事展の在り方をリニューアルすることになりました。そのリニューアルへ至る過程とは・・・・・・・・

支部活動の活性化を図るため、若手会員を中心に企画委員会を設立しました。まずは、企画委員会の中で“建築士の在り方”を深掘りしました。当該委員会は“堅苦しい会議”というよりは“お茶会”の雰囲気ですターバックスのコーヒー片手に自由に意見を交わすリラックスできる有益な時間でした。



結果、『建築士はもっと“地域のお困りごとに寄り添える、身近な存在”になることが大事ではないか?』という結論に至りました。社会貢献、会員活動活性化の観点から非常に合理性があり、鎌倉支部の活動の中心に位置付けられました。

しかし、そのためにはまず地域に認知されなければならない・・・・・・・・

『鎌倉支部の認知活動といえば、仕事展。であれば仕事展の在り方をリニューアルする?』

その結果、市内を5ブロックに分け、2か月に1回を目途に仕事展を開催。仕事展が市内を行脚します（認知活動の密度を上げる）。各ブロック毎に班長を決め、班長を中心に会場設定・集客を各ブロックで企画するようにしました。



副作用として各ブロック内の会員さんは参加することを原則として、今まで支部活動に出席していただけていない会員さんにも積極的に参加を促し、会員間の交流・活動活性化も同時に図る施策です。・・・・・・・・・・・・・・・・・・いよいよ始まります。（汗）

新入会員のご紹介

横浜支部

株式会社インダ設計コンサルタン ト 磯田 和良
〒220-0023横浜市西区平沼1-4-2
ホーユコンフォルト横浜平沼402
TEL.045-577-0651/FAX.045-577-0652

平塚支部

wood stock design 菊地 巧
〒254-0903平塚市河内140-51
TEL.090-2653-0739/FAXなし

退会者

横浜支部

権設計企画工房株式会社 山下 東也
株式会社大周建設二級建築士事務所 青 洋一
株式会社曾根靖裕デザイン事務所 曾根 靖裕
株式会社K・スペースデザイン 小関 信行
一級建築士事務所のぞみ 望月 達也
一級建築士事務所クレヨン 平野 淳也

川崎支部

株式会社松崎樺山建築設計事務所 松崎 亮也
株式会社岩田建築設計事務所 岩田 敦

湘南三浦支部

株式会社インベ・設計室A Z M 磯部 東

秦野支部

新進建設株式会社一級建築士事務所 興津 壮人

相模原支部

株式会社ホームリーダー二級建築士事務所 菊池 晴利

変更

横浜支部

株式会社レーベンホームビルド
(TEL・FAX変更) TEL.045-227-6653 FAX.045-227-6658

株式会社クレア建築士事務所
(所在地・TEL・FAX変更) 〒226-0022横浜市緑区青砥町803-14
TEL.045-500-9622 FAX.045-532-3923

ナイス株式会社一級建築士事務所
(指定代表者変更) 山口 勉

クリステラ建築設計事務所
(事務所名変更) アーキスターズ株式会社

有限会社インダ設計一級建築士事務所
(指定代表者変更) 草薙 茂雄

有限会社樹建築事務所
(所在地・TEL・FAX変更) 〒231-0821横浜市中区本牧原13-1-404
TEL.045-628-4417 FAX.045-628-4422

藤沢支部

株式会社アーキクルー一級建築士事務所
(所在地変更) 〒251-0055藤沢市南藤沢9-12 南藤沢パークホームズ703

株式会社米村和夫建築アトリエ
(所在地変更) 〒251-0035藤沢市片瀬海岸1-9-25-703

鎌倉支部

鎌倉R不動産株式会社
(所在地変更) 〒248-0012鎌倉市御成町5-42

茅ヶ崎寒川支部

総合住販株式会社二級建築士事務所
(事務所名・所在地変更)
株式会社BeSosiA一級建築士事務所
〒253-0044茅ヶ崎市新栄町7-5-3階
TEL.0467-53-7355/FAXなし

特別会友入会者

川崎支部

岩田 敦

賛助会入会者

株式会社アートフォースジャパン

賛助会退会者

一般財団法人あんしん財団 神奈川支局

会 勢

支部名	令和5年4月1日	現在	入会者	退会者	増減
横 浜	254	255	14	13	1
川 崎	107	109	6	4	2
横 須 賀	49	49	0	0	0
湘 南 三 浦	16	19	4	1	3
藤 沢	36	36	0	0	0
鎌 倉	42	43	3	2	1
茅ヶ崎寒川	15	14	1	2	-1
平 塚	21	23	2	0	2
秦 野	13	12	0	1	-1
伊 勢 原	6	8	2	0	2
大 和 綾 瀬	18	18	0	0	0
厚 木	30	30	0	0	0
座 間	11	11	0	0	0
海 老 名	15	16	1	0	1
愛 川	6	6	0	0	0
相 模 原	61	63	3	1	2
県 西	37	38	1	0	1
合 計	737	750	37	24	13
賛助会員	88	98	11	1	10

※退会報告等の状況により会員数は常に変動しております。
※入会者、退会者には支部間の異動も含まれます。

編集者のつぶやき

最近、地元の高校の建築の授業に講師として参加する機会がありました。授業の内容は、初日に1日かけて「住吉の長屋」の図面をトレースし、2日目にまた1日かけて模型を作成するという比較的大掛かりな授業でした。

「住吉の長屋」は作品としては知っていましたが、詳しく図面を見たことがなかったので、いろいろな発見があり、私自身もとても勉強になりました。特に寝室はイメージよりもコンパクトでしたが、それに比べると中庭は非常にゆったりと作っていて、改めてプランの斬新さを感じました。

高校生たちの意欲も高く、驚かされました。課題は平面図と立面図のトレースだけでしたが、アクソメに挑戦した学生もいましたし、模型でも難しい階段を進んで作ろうとする学生もいて、見ていて少し嬉しくなりました。

建築の実務においても、「もう少し図面を詳しく書いておこう」とか、「図面にはこうとしか書いていないけど、ここまでやっておこう」といった施工者や設計者の「より良いものを作ろうとする気持ち」によって支えられている部分も多いと思います。当たり前のことですが、高校生たちと授業をして、そうした「より良いものを作ろうとする気持ち」をいつまでも大切にしたいと感じました。

(横須賀支部 戸井田設計 戸井田 顕)

KANAGAWA 令和6年3月号(通号449号)

発行 令和6年3月1日(奇数月1日発行)
発行人 平山 正義
発行所 一般社団法人 神奈川県建築士事務所協会
〒231-0032 横浜市中区不老町3-12 加瀬ビル201 2F
TEL. 045-228-0755/FAX. 045-212-3807
印刷所 株式会社 柏苑社

担 当 副 会 長 小松 正道
担 当 理 事 田中 正幸
会報誌編集特別委員長 小泉 厚
会報誌編集特別副委員長 仙波 弦
会報誌編集特別委員 雨森 隆子 小河 泰隆 森本 和樹
戸井田 顕 中原 尚代 杉本 勝郎
長川 勉
事 務 局 小林 恵美



今月の表紙 川崎市役所本庁舎

旧本庁舎(裏表紙)は、一面焼け野原となった戦時中の大空襲を生き延び、白い時計塔がシンボルとして市民に親しまれてきましたが、老朽化が進み建替えとなりました。竣工した本庁舎は旧本庁舎の時計塔のデザインを復元棟として残し、超高層棟と2棟で構成されています。超高層棟25階には、一般開放された展望ロビー・スカイデッキが配置され、東京・横浜が見渡せる360度の眺望が楽しめます。

(表紙写真・文／森本 和樹)

『わが恩師を語る』寄稿文 募集

令和6年5月号より連載が始まる特集『わが恩師を語る』の寄稿文を会員の方々より募集します。

設計事務所の所長・先輩、学校の先生、現場の所長等、建築関係で自分が恩師だと思う方々を語ってもらえる場とします。

●仕事への姿勢やエピソード、教えなど内容は自由です。

●見開き2ページ、文字数1200字程度、写真5～7枚

寄稿ご希望の方は事務局 担当 小林へご連絡いただければと思います。ご連絡先→045(228)0755



一般
社団法人

神奈川県建築士事務所協会

Kanagawa Architect Office Association